

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875200541		
法人名	株式会社 グロリアコーポレーション		
事業所名	グループホーム めぐみの丘		
所在地	兵庫県神戸市西区美穂が丘4丁目12-2		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp/kai_gosip/informationPublic.do?JCD=2875200541&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2-14
訪問調査日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様の個人個人を尊重し、家庭的で、我家と思えるような暖かいホームを目指しています。主婦手作りの体にやさしい栄養満点の料理の提供を心がけています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄り駅(神戸電鉄押部谷)から徒歩約15分の閑静な住宅街の中にあり、ホームは、「戸建て住宅」の多い街並みに溶け込んでいる。一般の住宅を改修しグループホームとして使っているメリットは、建物内部の随所に感じられる生活観である。管理者や職員の利用者への対応も、家庭的な優しい雰囲気を感じさせ、アットホームな暮らしが利用者の笑顔に繋がっている。また、職員の自主性も家族同様に大事にされている。庭には多くの木や花が植えられ、家庭菜園も整備されており、ウッドデッキを歩いて庭に出ることもできる。緊急時には24時間連絡体制の取れる医師がおり、家族や職員にとって大変心強い環境である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の基本理念を掲げ管理者、職員はその理念を共有し理念の実践に向け日々取り組んでいる	低コストで高品質なサービスを提供し、「継続的な改善」を図るという明確な理念を打ち出している。利用者と地域住民との日常的な“つきあい”念頭に、職員研修に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や職員は日常的に近隣の方と出会うと挨拶を交わすよう努めている。前面の家の子供たちとは顔なじみになり声を掛け合っている	地域の住民として月一回のふれあい喫茶に参加している。ボランティアの方の訪問や、中学校の音楽会やPTA競技への参加等、また、近隣からも地域住民として受け入れてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回開催されるふれあい喫茶に参加させてもらっているがめぐみの丘の利用者認知症の方という認識を地域の方にもってもらい理解して頂けるようになってきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者、利用者家族様の出席を仰ぎサービスの実際や評価への取り組み状況について説明し、ご家族様からは利用者様への対応に関する要望を聞かせて頂きサービスの向上に努めている	運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に開催されており、事業所からの伝達や家族からの意見を伺う機会として定着している。地元の消防との関係も良好である。	家族の参加者がやや少ないので、多くの参加が出来る取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回包括支援センターの職員に参加してもらっているし、ふれあい喫茶では地域の民生委員さんに出会えたり交流関係を深めている	市や地域包括支援センターとの関係や、民生委員との連携も積極的に行っており、地域における役割が定着している。今後も事業所の拡大に向けて、模索している段階である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が具体的にどのような行為が身体拘束にあたるかを正しく理解できるよう研修の機会を持ち、理解を深め、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては安全のため致し方ない	各部屋からは自由に庭に出れるが、周辺の交通量が多いため、安全上の配慮で門扉には施錠をしている。身体拘束排除への取り組みも、研修や全体会議の中で取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は月1回開く全体会議において勉強会をもちケアマネを中心として虐待防止の意識を共有し事業社内での虐待防止の徹底に努めている	具体的な事例をもとに、集団指導によるOJTを事業所の全体研修でも行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には身寄りの無い方も含まれており権利擁護に関する制度については職員も理解と活用の必要性を認識している。それらを活用できるよう今後取り組んでいきたい	金銭の管理など、権利擁護事業を必要とされる利用者もあり、具体的な取り組みに関して必要性を感じている。今後の研修計画に組み入れるなど、検討している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族様や身元引受人に対しては入所時に重要事項説明書を用い十分な説明を行いまた質問にも答えて理解、納得を図った上で契約を結んでいる。書類には確認のため署名捺印をもらっている	利用者や家族への説明は、管理者が時間をかけて丁寧に行っており、事前に書類などを送付したり渡してから押印してもらう場合もある。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族様からの意見、要望には運営者はじめ管理者や職員はその都度耳を傾け希望に添えるよう努めている	家族等からの意見・要望は直接面会した時や電話で聞き取り、申し送りファイルや個別ケース記録に記載されている。場合によってはワーカーからのヒアリングも行っている。3ヶ月ごとに「めぐみの丘通信」を出しており、家族への連絡などを行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり月1回の全体会議を開き原則全員の職員が参加しその場で意見の交換を行い、管理者はその意見や提案を運営に反映させるよう運営者にも伝えている	毎月の全体会議の中で職員の意見を聞き取り、管理者が代表者への伝達を行っている。2泊3日の研修旅行もあり、代表者は各事業所を巡回し意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況は把握しており、それぞれの勤務に対する要望にも出来るだけ答えるべく職場環境・条件の整備に努めているし、運営者にも報告し各自が向上心を持って働けるようサポートしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の指示で外部の研修に参加する機会を持っている。また個人的に資格取得のため勉強を続けている者に対しては実習等への参加には出勤調整などの便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回開かれる西区のグループホーム連絡会には出来るだけ参加し情報交換と交流を図っている。又押部谷地区にある介護関係事業所の連絡会議に参加し同業者との交流を通じサービスの向上に取り組んでいる		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みの時点で家族様から困りごとほか話をうかがっており、その後ご本人の訪問を受け信頼関係を築き納得の上入所して頂いている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた時点で管理者や介護支援専門員は家族様から詳しく入所を必要としている状況を聞き取ることになっている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入所を希望されている方であっても施設のハード面においてどうしても対応出来かねると判断した場合はその旨を伝えて、他の施設、他のサービスを利用してもらえるようお願いしている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者とは出来るだけ一緒に過ごす時間を持ち利用者の気持ちに沿えるよう支援している。利用者から教えてもらったり手助けしてもらおう場面もある。そのような支えあう関係が築けるよう努力している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも利用者を共に支える関係でありたいと連携を密に取るよう努めている。誕生会や行事には参加を呼びかけ共にくつろぎ交流を深めている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの品々を居室に揃えたり、会話の中で馴染みのある言葉を織り交ぜ利用者の古い記憶を蘇らせたり気持ちを和ませたりするよう支援している	地域の踊りの会へ参加したり、知り合いの方が訪問に来られたりしている。なるべく今までの生活の延長線上での生活が維持できるような取り組みをしている。	退職後の職員なども、時折訪問する関係を維持できれば良いと思う。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士が良い関係を保ち助け合ったり支えあったりしている時はそっと見守り、悪い時にはその場を円満に取りもつよう間に入り修復に努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が長期にわたり入院し、ホームを退所扱いになっても、その後の受入先を捜すなど良好な関係を続け支援している。住民票を残してあるある場合には荷物や郵便物を保管したりもしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様から情報を得たりご本人との会話の中でその方のホームに対する思いや希望などを把握するようにしている	利用者のペースにあわせた支援を行なえるよう、生活のあらゆる場面において職員全体で取り組んでいる。本人本位の対応を考え、家族の方からも情報を得るように努力している。	日常業務の中で、一定の期間(1週間位)を定め、個々の利用者をアセスメントする機会を作ってみてはどうか。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで御家族様からお聞きしたり日々の生活の中でご本人の口から語られることによって把握することが出来る		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活をしていく中でその方の現状はケース記録に記入されその記録を元にケアカンファレンスを開き把握した情報は職員間で共有するよう努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、随時のミーティング、ケアカンファレンス等開き関係者と話し合いそれぞれの意見やアイデア、家族様の意向をも反映させた介護計画を作成している	随時のミーティングやケアカンファレンス、月に1度の全体会議の中で、それぞれの意見やアイデアおよび家族意向を反映させた介護計画を作成している。遠隔地など、話し合いの持てない家族には随時電話で意向を把握している。	利用者の支援計画を作成するに当たり、日常におけるモニタリングが大切です。職員一人ひとりの気付きが、利用者の生活に結びついている意識が持てるように取り組んでください。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫など利用者個別のケア記録に記入し、申し送りノートに記入するなど職員間で情報を共有しながら実践をし、介護計画の見直しにも活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれのその時々生じたニーズに対応して旅行に行ったり、地域のクラブに参加したり生活に張りと感じてもらえるよう柔軟な支援やサービスの提供に努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会が主催している踊りのサークルに参加することで本人の持っている力を発揮し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時には24時間連絡の取れるかかりつけ医がおり、ホームとは信頼関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している	基本は家族の対応であるが、緊急時は24時間体制で医師の往診依頼や電話での相談ができる。何人かの利用者はかかりつけ医を事業所の協力医以外としているが、いつでも認知症専門医への診察や相談ができる体制を整えている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はホームとしては雇用していないが、日常の介護現場でとらえた情報や気付きはその都度かかりつけ医に伝え相談し適切な指示を受けられるよう支援している		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はこまめに面会をし家族とも出会い本人の状況を正確に把握するよう努めている。なお退院に当たっては関係者病院の相談員等カンファレンスを行い情報の交換や相談に努めている	医療機関との関係では、管理者とケアマネが中心となって動いており、退院時には医療機関の相談員などと連携しカンファレンスを行っている。	今後さらに多くの医療機関との連携を深める努力をしてみてください。
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方についてはどこまでホームで対応できるか、関係者と話し合いを繰り返し利用者本人にとってより良い環境を見つけるべく運営者を中心に方針を定め、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までターミナルの事例はないが緊急入院の事例があり、ホームとしての対応について個別に検討し始めている。医療機関との話し合いや訪問看護との連携など、ホームとしての方針を検討している。	ターミナルや重度期についての基本方針を作成し、夜間における職員の心理的な不安を軽減することも検討してほしい。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や心肺蘇生法の講習を以前に受けた職員がいるがすべての職員についての定期的な訓練は行われていない		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えて年2回定期的に消化訓練や避難訓練は行っている。夜間の災害に対しては地域の方々の協力が必要であるため協力が得られるよう日々働きかける必要がある	運営推進会議の中に、消防士のメンバーがおり、消火訓練や避難訓練時には色々なアドバイスが貰える。また、隣接する住宅地の協力が得られるよう働きかけをしている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の呼びかけ、失禁時にはプライドを傷けない言葉掛けや対応に心がけている。又入浴時には異性に対する羞恥心に配慮した対応をし、個人情報の取り扱いにはインシヤルを使用するなどプライバシーの確保に努めている	各職員は、声かけや羞恥心に配慮した対応を行っており、相談などに応じる場合、個人の部屋で聞き取りをするなど注意している。個人の記録についても全体会議で話し合い職員間の意思統一を図っている。	今後、ボランティアなどへも個人情報への取り組みを伝えることも重要な課題になってくる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とは出来る限り会話の中で自分の思いを表せるよう働きかけ、行事に参加する場合も本人の意思を尊重し、本人が自分で決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の流れの中でもその人のペースを大切にし、食事、排泄、入浴、就寝等拒否があったら無理強いしない。声掛けをするうち本人が納得して応じられるまで待ち、本人にとって心穏やかな生活が実現できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買物と一緒に出かけ、気に入った衣類を選んで購入しそれぞれがおしゃれを楽しんでいる。美容院でパーマやカットをし、散髪にも同伴する。他の方は定期的に出張美容を利用している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材切りや盛付け、配膳等もお願いしている。食事は職員と共に隣り合って楽しんで頂きました食器洗いや後片付けも共同で行っている。声掛けはするが利用者様の自主性に任せ無理強いはしていない。	献立表は1週間ごとに作成し、一人ひとりの栄養バランスや好みを考えて作られている。野菜を多く取り入れ、季節感のある食材(うなぎやマツタケなど)を取り入れるよう工夫している。買い物や食材の下拵え、盛り付けや片付けなど、利用者の自主性にまかせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量、水分摂取量をチェック表に記入し、必要量を確保出来るよう努めている。食べる量や栄養バランスを確保するよう献立をたてているが摂取量が足りないときは形状を変えて飲み込みやすくするなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はそれぞれの利用者の口腔の状況に合わせて歯磨きや義歯の洗浄等、口腔内の清潔保持を支援している		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとの排泄のパターンを把握し自然な声掛けにより排泄を促すことを心がけている。排泄の失敗による自信喪失を防ぐようさりげなく処理をするなど気をつけている。出来る限りトイレでの排泄を支援している	一人ひとりの生活パターンを把握することで、自立に向けた支援ができており、排泄に関しては要支援の人よりも自立に近い人のほうが増えてきた。自信の喪失にならないよう、尿取りパッドやリハビリパンツを補助的に使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の日々の排便の状況を把握しており、便秘を予防するためヨーグルトや野菜を多く摂取するよう工夫し、また排便の兆候を見逃さずトイレへ誘導するよう支援している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は設定してあるが、入浴の順番等はその日の状況により決めている。夏場にはシャワー浴を行ったりその都度必要に応じて取り入れている	入浴は、平日の午後を中心に週に3日を確保している。入浴時に気付いた会話などもケース記録に書くようにしており、話題性を高めるよう、「ゆず湯」なども取り入れている。夏場はシャワー浴を取り入れてたりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、生活のリズムを作るよう心がけている。その中で気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。居間でウトウトされていたり、入浴後部屋でゆっくり休んでもらったり、御自分から部屋に戻られて休まれる時もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書やお薬手帳などを元に利用者1人ひとりの服薬の状況を把握しており薬の種類、用量等間違いの無いよう確認して薬箱にセットし処方どおりの服薬を支援し、又服薬による症状の変化を観察し医師に報告するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた手伝い(掃除・洗濯物たたみ・食材きり・配膳・後片付け)をお願いしているが自主性に任せ決して無理強いはしていない。日課として張りのある生活の一部となっている。日課の中にカラオケや体操を取入れ個人的に将棋を楽しむ方もいる		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物に行く時は利用者に声をかけ誘って一緒に行くことがある。月に数回教会の礼拝に参加したり、月に1回のふれあい喫茶に参加している。お花見や行楽には家族様をお誘いして、職員は総出で介助にあつたっている。希望により温泉に宿泊したり甲子園に高校野球観戦に行くこともある	日常では、庭の掃除や洗濯干し、野菜作りなどを行っている。水族館の見学や花見、紅葉狩り、外食での回転寿司など、季節ごとの外出機会を設けている。年に2回、全員参加の旅行にも出かけており、踊りやお稽古ごとの教室にも参加している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が家族様からお小遣いをもらった時などお金はホームで預かり、買物には一緒に出かけ、本人が希望するものを買ったりすることはあるが、利用者本人がお金を所持することは支援していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等に御自分で電話されることもあるし、電話したいと言われる場合には職員がお掛けして取次ぐこともある。手紙についてはご本人の希望で年賀状の宛名を代筆したり支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて暮らせる空間を作り環境を整えるよう配慮している。食堂や居間は採光を広く取入れ風通しも良く、外を見れば山の緑が気持ち良く季節を感じる事が出来る。台所からは調理の匂いが漂い生活観が感じられ、居心地良く過ごせている	玄関周りにはベンチが設置されており、庭の草木からは季節感が感じられる。一般の住宅を改修しており、2階への移動は階段昇降機も活用している。食堂や居間は明るく風通しもよい。天気の良い日にはウッドデッキのテラスでお茶会をすることも出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にベンチがあり、座って景色を眺めたり、玄関ホールにソファを置き1人でも又利用者同士でも語らったり出来る。テラスにも椅子とテーブルを置きお茶会をすることも出来る。利用者が思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にベッドやたんすなど使い慣れた家具や備品を持ち込んで頂き、写真や趣味で作ったぬり絵やパズルを飾り個人の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している	各居室は、一般住宅の部屋であり、各室には使い慣れた家具や調度品を持ち込んでいる。それぞれの気に入った写真などを飾り、個性を活かした居室作りがされている。利用者にとって落ち着いた安心できる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には名前のプレートを置き、居間やトイレの場所は分かりやすく張り紙をするなど混乱や失敗を防ぎ安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している		